

【原 著】

大学生におけるインターネット使用態度と
インターネット依存傾向
—インターネット使用開始時期による検討—

三宅 幹子

Attitude towards Internet Use and Tendency of Internet Addiction among University Students:
Focusing on the Timing of Starting Internet Use

MIYAKE Motoko

2024

岡山大学教師教育開発センター紀要 第14号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.14, March 2024

原 著

大学生におけるインターネット使用態度と インターネット依存傾向

—インターネット使用開始時期による検討—

三宅 幹子※1

大学生を対象に、インターネット使用態度、インターネット依存傾向、インターネット使用開始時期について質問紙調査を用いて検討した。インターネット使用開始時期により、調査参加者を小学校群（18名）、中学校群（44名）、高校以降群（33名）の3群に分類し、大学生時点でのインターネット使用態度とインターネット依存傾向を比較した結果、小学校群はインターネット依存傾向が高めであり、他者の不適切なインターネット使用に対し介入することは少ない傾向があった。小学校高学年から自分用の機器によるインターネット使用環境を入手していた者の大学生時点での使用状況には、より遅くから自分用のインターネット環境を入手した者に比べ懸念すべき部分がある可能性が示唆される。インターネットの使用開始年齢によるその後の影響について、実践的な問いに答えるためには、より多面的に使用実態の違いを検討していく必要があることが指摘された。

キーワード：インターネット使用態度、インターネット依存、情報モラル教育

※1 岡山大学学術研究院教育学域

I 問題と目的

スマートフォンやゲーム機器等、子どもがインターネット環境を手にする時期は年々低年齢化する傾向にある（例えば、内閣府, 2023）。現代社会において、インターネット環境はもはや必須のものといえる。しかし一方で低年齢からヘビーに使用することについては警鐘が鳴らされている。学校教育においても、学習におけるネットやデジタルツールの利用（例えば、宇治橋・渡辺, 2023）、および、ネットモラル教育等、インターネットの使用に関わるスキルや態度の育成に力が注がれ、インターネットの有効利用を促進する傾向が加速していると同時に、インターネット依存や過度な使用による生活習慣の乱れや健康被害など、インターネット使用に際して留意すべき点も多く指摘されており、特に低年齢の子どものインターネット使用に関しては不安を示す保護者の声も少なくない。そこで本研究では、自分専用のインターネット環境の使用開始年齢によるその後の使用実態の違いを検討するための基礎的な資料の一つとして、大

学生を対象に調査し結果の概要を報告する。具体的には、自分専用のインターネット環境の使用開始年齢によって、大学生時点でのインターネット使用態度、インターネット依存傾向に違いがみられるかとの観点から検討を行う。

II 方法

1 調査参加者

総合大学の教育学部に在籍する学生 95 名。調査参加者のほとんどは中学校教諭免許状取得が卒業要件となる課程の在籍者であった。

2 質問紙の構成

調査に使用した質問紙は、(1) インターネットの使用歴・使用状況、(2) 現在のインターネット使用態度、(3) 現在のインターネット依存傾向の3つの部分から構成されていた。

(1) インターネットの使用歴・使用状況

インターネットの使用歴・使用状況として、小学校入学前～現在(大学)までの期間について、①使用歴、②通信量・時間のコントロール状況、および危険・トラブル回避に関するリスク状況、③②の管理における自律・他律の程度を尋ねた。

本研究においては「①使用歴」のみを分析に用いた。「①使用歴」の具体的な測定方法については、「小学校入学前」から現在に至るまでの時期について、インターネットに接続することのできる自分用の機器を使用していた期間をすべて選択してもらった(選択肢は「小学校入学前」「小学校低学年(1～2年生)」「小学校中学年(3～4年生)」「小学校高学年(5～6年生)」「中学校1～2年生」「中学校3年生」「高校1～2年生」「高校3年生」「高校卒業後～大学・専門学校等」「大学・専門学校等卒業後」であった)。

(2) インターネット使用態度

現在の(大学生時点での)インターネット使用態度として、三宅(2021)に示す8項目を使用し、「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの5段階で評定を求めた。具体的な項目内容は巻末のAppendixに示す。

(3) インターネット依存傾向

現在の(大学生時点での)インターネット依存傾向を測定するために、インターネット依存度テスト(樋口, 2017)(久里浜医療センター訳, 20項目, 「全くない」から「いつもある」までの5段階評定^{**1)}を使用した。得点範囲は100～20点で、70点以上がネット依存的傾向高、69～40点がネット依存的傾向中、39～20点がネット依存的傾向低と解釈される。

3 調査の実施方法

大学の教職科目の授業終了後に受講者の学生を対象に調査への協力を求めた。調査は無記名で、回答者個人が特定されない方法で行われた。調査の実施にあたり倫理的な配慮として、調査への参加は任意で参加を拒否することによる不利益は無いこと、また、回答したくない項目への回答は不要である旨を説明した。

III 結果と考察

回答に大きな不備の無かった調査参加者を対象にして、自分用のインターネット接続環境を入手した時期によって、小学校5～6年生の群（小学校群；18名）、中学校1～3年生の群（中学校群；44名）、高校1年生以降の群（高校以降群；33名）の3群を設定した。なお、小学校4年生以前からの使用者については、少数であり、家庭の状況等個別の事情から使用開始している可能性が高いと考えられるため、本研究の分析には含めないこととした。その結果、95名が分析の対象となった。

分析に用いた各変数は次のように算出した。「インターネット使用態度」については、8項目の評定値（5段階評定、それぞれ1～5の値をとる）を、高い値ほど望ましい使用態度であることを示すように集計した。また、「インターネット依存傾向」として、インターネット依存度テスト（樋口，2017）の得点を用いた。インターネット依存度テストの得点範囲は100～20点であり、得点の解釈は方法部分で述べたとおりである。

1 各変数の基礎統計量

各変数の基礎統計量を表1に示す。また、「インターネット依存傾向」の得点にもとづく各依存傾向レベルの度数（人数）を表2に示す。

2 変数間の関連

変数間の相関係数を表3に示す。「インターネット使用態度」の項目間で比較的高めの相関がみられた対をみると、「①適切な使い方を考える」と「②自分なりのルール」との間、「①適切な使い方を考える」と「⑦適切な使い方を話し合う」との間、「②自分なりのルール」と「③使用時間・量のコントロール」との間、「②自分なりのルール」と「⑦適切な使い方を話し合う」との間、「④安全な使い方」と「⑤傷つけない使い方」との間、「④安全な使い方」と「⑥プライバシーの保護」との間であった。

また、「インターネット依存傾向」との間に統計的に有意な相関係数がみられた「インターネット使用態度」項目は、「④安全な使い方」と「⑥プライバシーの保護」であり（ $p < .05$ ）、「インターネット依存傾向」が高い者ほど、「④安全

な使い方」も「⑥プライバシーの保護」も出来ていないと感じている傾向が示された。また、有意傾向 ($p < .10$) がみられた「インターネット使用態度」項目として、「③使用時間・量のコントロール」があり、「インターネット依存傾向」が高い者ほど、「③使用時間・量のコントロール」はできていないと感じる傾向があることがうかがわれる。

表1 各変数の基礎統計量 (平均値, SD)

	全体 ($N=95\sim93$)	小学校群 ($n=18\sim16$)	中学校群 ($n=44$)	高校以降群 ($n=33\sim32$)
インターネット使用態度 ¹⁾				
①適切な使い方を考える	3.4(1.1)	3.6(1.0)	3.4(1.1)	3.3(1.2)
②自分なりのルール	3.1(1.1)	2.9(1.1)	3.1(1.1)	3.3(1.2)
③使用時間・量のコントロール	3.3(1.0)	2.9(1.1)	3.2(1.0)	3.5(0.9)
④安全な使い方	4.3(0.8)	4.4(0.6)	4.3(0.8)	4.3(0.8)
⑤傷つけない使い方	4.3(0.8)	4.3(0.8)	4.4(0.8)	4.2(0.7)
⑥プライバシーの保護	4.2(0.8)	4.2(1.0)	4.2(0.8)	4.2(0.9)
⑦適切な使い方を話し合う	2.5(1.1)	2.4(1.0)	2.3(1.0)	2.7(1.2)
⑧不適切な使い方への介入	3.1(1.1)	2.6(0.9)	3.2(1.1)	3.1(1.0)
インターネット依存傾向 ²⁾	42.2(12.6)	46.9 (11.8)	43.5(13.4)	38.2(10.9)

¹⁾ ①～⑧の得点可能範囲はそれぞれ1～5. ①～⑧の質問項目の内容は Appendix を参照のこと.

²⁾ 得点可能範囲は20～100.

表2 各依存傾向レベルの度数 (括弧内は全体または群内でのパーセンテージ)

	全体 ($N=93$)	小学校群 ($n=16$)	中学校群 ($n=44$)	高校以降群 ($n=33$)
依存傾向レベル ¹⁾				
ネット依存的傾向低	41(44.1)	4(25.0)	19(43.2)	18(54.5)
ネット依存的傾向中	49(52.7)	11(68.7)	23(52.3)	15(45.5)
ネット依存的傾向高	3(3.2)	1(6.3)	2(4.5)	0(0.0)

¹⁾ インターネット依存度テスト (樋口, 2017) の得点において70点以上がネット依存的傾向高, 69～40点がネット依存的傾向中, 39～20点がネット依存的傾向低と解釈される.

表3 変数間の相関係数¹⁾

	インターネット使用態度							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
インターネット使用態度 ²⁾								
① 適切な使い方を考える		.62*	.35*	.17	.31*	.33*	.54*	.26*
② 自分なりのルール			.55*	.12	.28*	.21*	.56*	.20 ⁺
③ 使用時間・量のコントロール				.11	.27*	.07	.40*	.31*
④ 安全な使い方					.50*	.52*	-.02	.02
⑤ 傷つけない使い方						.39*	.05	.27*
⑥ プライバシーの保護							.20*	.07
⑦ 適切な使い方を話し合う								.29*
⑧ 不適切な使い方への介入								
インターネット依存傾向	.04	-.07	-.20 ⁺	-.31*	-.07	-.22*	.04	-.06

1) N=95~93. 欠損値についてはペアワイズで除外. * $p < .05$, ⁺ $p < .10$.

2) ①~⑧の質問項目の内容は Appendix を参照のこと.

3 インターネット使用開始時期別にみたインターネット使用態度およびインターネット依存傾向

インターネット使用開始時期に基づいて設定した3群間に（小学校群，中学校群，高校以降群），「インターネット使用態度」および「インターネット依存傾向」における差があるかを検討するため，一要因分散分析を行った。その結果，「インターネット依存傾向」においては，群の主効果が有意であり（ $F(2, 92) = 3.19$, $p < .05$, $\eta^2 = .08$ ），多重比較（tukey法）の結果，小学校群の平均値（46.9）と高校以降群の平均値（38.2）について差の傾向がみとめられた（ $p < .10$ ）。一方，「インターネット使用態度」においては，群の主効果が有意となるものはなかったが，「⑧不適切な使い方への介入」において有意傾向が示され（ $F(2, 94) = 2.72$, $p < .10$ ），小学校群の平均値（2.6）と中学校群の平均値（3.2）の間に開きがある傾向が指摘された。

また，表2に示す依存傾向レベルのデータについて，「ネット依存的傾向高」の度数が小さいため，「ネット依存的傾向高」と「ネット依存的傾向中」をプールして「ネット依存的傾向中および高」とし，「ネット依存的傾向低」と「ネット依存的傾向中および高」の2つのカテゴリの比率が群間で異なるか検討した（ χ^2 検定）。その結果，有意な差は示されなかった（ $\chi^2(2) = 3.84$, $n. s.$ ）。

これらの結果より，インターネットに接続することのできる自分用の機器を小学校高学年から使用している群においては，高校以降から使用している群よりも大学生時点でのインターネット依存傾向は高めであり，また中学校から使用し始めた群と比べ，大学生時点で他者の不適切なインターネット使用に対し介入することは少ない傾向があることが示された。これらの検定結果および表1に示す各変数の群別の平均値の値を総合して考察すると，小学校高学年から

自分用の機器によるインターネット使用環境を入手していた者の大学生時点での使用状況には、それよりも遅くから自分用のインターネット環境を入手した者に比べて懸念される部分があるといえよう。

ただし、本研究で使用したインターネット使用態度の測定項目においては、ほとんどの項目で使用開始時期にもとづく群間に明確な差は示されておらず、またサンプル数も小さく調査対象も限定的であることから、インターネット使用開始時期による予後の違いについて明らかにできたとは言い難い。インターネット環境の使用開始年齢によるその後の影響について、実践的な問いに答えていくためには、より多面的に使用実態の違いを検討していく必要が指摘される。

参考・引用文献

- 樋口 進 (2017). 心と体を蝕む「ネット依存」から子どもたちをどう守るのか
ミネルヴァ書房
- 三宅 幹子 (2021). 大学生におけるインターネット使用態度、インターネット
依存傾向とインターネット使用開始時の使用状況との関連 岡山大学教師
教育開発センター紀要, 11, 307-317. <http://doi.org/10.18926/cted/61582>
- 内閣府 (2023). 令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12772297/www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_torikumi/tyousa/r04/net-jittai/pdf-index.html
- 宇治橋 祐之・渡辺 誓司 (2023). 「1人1台端末時代」の学校と家庭の学習に
おけるメディア利用とその課題 : 2022年度「中学校教師のメディア利用
と意識に関する調査」から 放送研究と調査, 73, 30-63.

付記

本研究は、科学研究費助成金（課題番号 17K04863）の助成を受けたものです。
記して謝意を表します。
本研究の一部は、日本教育心理学会第62回総会にて発表しました。

註

※※1

久里浜医療センター

IAT : Internet Addiction Test (インターネット依存度テスト)

<https://kurihama.hosp.go.jp/hospital/screening/iat.html>

Attitude towards Internet Use and Tendency of Internet Addiction among University Students

: Focusing on the Timing of Starting Internet Use

MIYAKE Motoko*1

To examine attitude towards Internet use, tendency of internet addiction, and timing of starting Internet use among university students, the survey was conducted. The participants were divided into three groups based on when they started to use the Internet: elementary school group ($n=18$), junior high school group ($n=44$), and high school and above group ($n=33$). Attitude towards internet use and tendency of internet addiction at university were compared between groups. The results showed that elementary school group had higher tendency of internet addiction and was less likely to intervene in the inappropriate use by others. To answer practical questions about the appropriate age to start using the Internet, it is necessary to examine from multiple perspectives.

Keywords: attitude towards Internet use, tendency of Internet addiction, information moral education

*1 Faculty of Education, Okayama University

Appendix

表 A 現在のインターネット使用態度を問う項目（三宅，2021）

項目 番号	内 容
①	インターネットの適切な使い方について、ふだんから考えている
②	インターネットの使い方について、自分なりのルールを決めている
③	勉強や生活の妨げにならないよう、インターネットなどの使用時間や通信量をコントロールしている
④	インターネット上で人とやりとりをする際に、危険やトラブルに巻き込まれない安全な使い方ができる
⑤	インターネット上で人とやりとりをする際に、相手を傷つけない使い方ができる
⑥	インターネット上で、自分や他の人の個人情報やプライバシーをきちんと守れる
⑦	インターネットの適切な使い方について、ふだんから自分の身の周りの人と話し合っている
⑧	身の周りの人がインターネットの不適切な使い方をしているのに気づいたら、やめるように言える